

令和2年度

フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会

令和3年3月29日(月)15:30~17:00 WEB開催

プロジェクト  
の取組

【目標】  
・食を中心とする健康増進社会の実現  
・異分野の融合によるイノベーションの創出

【指標】  
・静岡県健康寿命 日本一  
・食料品等の付加価値労働生産性 日本一

具体的な展開

## 戦略1：きわめる（研究開発）



オープンイノベーションやデータ活用による  
研究開発の推進

- ・ファルマ、フoton、AOI、MaOI、ChaOIとのプロジェクト間連携
- ・大学シーズやSR等の成果の公開
- ・健康データを活用したデータ駆動型の研究開発

## 戦略2：つくる（製品開発）



競争力のある高付加価値製品の開発

- ・県産農林畜水産物を活用した機能性のある製品開発
- ・優れたものづくり技術による生産性の向上（加工機械、フードロス）
- ・肥沃な土づくりによる豊かな農産物の展開
- ・健康情報を見える化するデバイス等の開発支援

## 戦略3：いどむ（ヘルスケア）



データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

- ・県民の健康データの収集と活用（データヘルス・リビングラボ）
- ・健康課題に対応した製品・サービスの開発（フレイル、メタボ等）
- ・ヘルスケア産業の創出（食や運動を含む健康プログラムの開発）
- ・幼年期の食生活の向上と食育の充実

## 戦略4：とどける（販路開拓）



社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる  
販路拡大とサービスの提供

- ・地域のブランディングによる商品価値の創造
- ・現代のライフスタイルや健康状態に応じた商品とサービス展開

## 戦略5：そだてる（人材育成）



産業人材等の育成と開発環境の  
充実によるクラスター形成

- ・健康講座などによる県民の社会参加促進と健康リテラシーの向上
- ・総合食品学講座の拡充
- ・健康イノベーション専攻の設置（静岡県立大学）

## 戦略6：ひろめる（情報発信）



「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の  
食文化の発信

- ・ハラル等に対応した食の展開
- ・GAPやHACCP等の国際規格への対応支援
- ・静岡型健康食の海外ビジネスの展開

産業競争力  
の向上  
食を中心とする  
ヘルスケアの推進

### 機能性食品開発プラットフォーム

- ・相談から届出、販路まで一貫支援
- ・フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンターと県立大学にて整備

### 化粧品開発プラットフォーム

- ・化粧品素材開発及び製品化を支援
- ・農林水産物の付加価値向上

### FHCaOIフォーラム

- ・企業等が集まる出会いとイノベーション創造の場

### データヘルス・リビングラボ 静岡

- ・県民参加による実証フィールド
- ・サイエンスに基づくデータを収集
- ・新たなサービス創造の場

取組を  
支える体制

# 戦略1 「きわめる」オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

先端科学技術拠点等との連携やオープンイノベーションの「場」の創出、健康データなどの活用により、研究開発を推進します。

### 2 主な取組

- 先端産業創出プロジェクトとの連携
- 研究機関との連携強化
- 企業連携を促進するフォーラム
- 健康データなどを活用したデータ駆動型の研究開発
- 海外研究機関との連携

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- AOI、MaOIプロジェクト等、先端産業創出プロジェクトとの連携による研究開発の推進
- フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター・県立大学・工業技術研究所等と連携した素材開発の推進
- 県内企業の技術情報Webサイト「テクノロジー静岡」の整備による企業連携の促進
- FHCaOIフォーラム会員向けセミナー等の情報発信の実施

### 2 取組実績（R2年度）

- ◇ 先端産業創出プロジェクト間の連携による事業化件数：3件
- ◇ 県工業技術研究所で県産農林水産品を活用した化粧品素材開発の実施：候補素材200種以上
- ◇ 産学官の連携による研究件数：60件
- ◇ テクノロジー静岡掲載件数：112社 うちFHCaOI関係27社、プロジェクト連携会議の開催2回
- ◇ FHCaOIフォーラム会員：1,209会員（保険事業者、給食事業者など約80社増）
- ◇ 会員向けフォーラム1回、地域セミナー2回の開催

## 進捗評価 Check

- ✓ フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンターをハブとして、先端産業創出プロジェクトや産学官連携による研究開発が進められている。
- ✓ 新型コロナウイルスの影響により、海外研究機関との連携が十分に進められていない。

## 来年度以降 に向けて Action

- FHCaOIフォーラムやテクノロジー静岡等のネットワークを活用して、技術情報の共有・コーディネータ間の連携を進め、オープンイノベーションによる研究開発を更に推進
- 新型コロナウイルスの状況を注視しつつ、ITRI・フードポリス等の海外研究機関との最適な連携の形を検討

# 戦略1 取組事例① 先端産業創出プロジェクトや研究機関との連携

(フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター、静岡県立大学、工業技術研究所)



県の先端産業創出プロジェクト

## 【概要】

○ファルマバレー、フotonバレー、AOI、MaOI、ChaOI、CNFなどの先端産業創出プロジェクトが展開されており、本プロジェクトとの連携が進んでいる。

○県立大学では、地域企業と連携し、お茶などの県産農林水産品を活用した研究開発を促進

○工業技術研究所に、食品等に関連する分析機器や製造機器を整備し、食品科を中心に、企業との共同研究を推進

## AOI、MaOIとの連携による成果



**機能性表示食品「三ヶ日みかん」**（三ヶ日町農業協同組合）  
○生鮮食品の果樹では初となる2成分表示（GABA,β-クリプトタンパク）  
○AOI(慶応義塾大学)が成分分析に協力



**「Algae(アルグ)スキンケアローション」**（株)GOLDBUE)  
○県産のアカモク由来の保湿成分とマグロ由来の美容成分を使用した高保湿化粧水  
○MaOI機構の資金的支援（MaOI事業化促進事業費補助金）  
○化粧品開発プラットフォーム（工技研による支援）

その他1、計3件

## 工業技術研究所と大学・企業の連携による研究開発



### 東海大学と連携した水産食品の開発

○新マイクロ波抽出技術による魚節フレーバー濃縮エキスの開発（香り抽出による新規フレーバー）  
(株)西尾商店×東海大学×工技研



### CNF活用のための物性評価

○CNF濃縮乾燥機の開発、及び液状茶の濃縮・乾燥粉末品の開発  
(株)西光エンジニアリング×工技研

# 戦略1 取組事例② 農林水産品を活用した化粧品素材開発の取組状況と成果

(フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター、工業技術研究所、静岡県立大学)



化粧品開発プラットフォームから生まれた製品

## 【概要】

- 平成30年度から国の地方創生推進交付金を活用し、化成品・加工機械の開発支援を開始
- フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターに化成品・加工機械コーディネータを配置し、800件以上の相談・マッチングを実施
- 令和元年度からは、工業技術研究所や県立大学と連携し、「化粧品開発プラットフォーム」を整備し、地域企業の化粧品開発をワンストップで支援(実績)  
46件を事業化 (H30～)

## 県産農林水産品からの素材開発

- ✓ 200種以上の候補素材から、粉末・エキス・オイル・香料等の素材を抽出中
- ✓ 「ハマナス」、「白びわ」は、製品化が期待される有力候補

| 素材            | 開発状況                                       | 今後の見通し                                   |
|---------------|--|--|
| ハマナス<br>島田市鍋島 | 粉末・エキス化<br>安全性・機能性評価<br>残留農薬検査<br>発酵・機能性強化 | (連携)<br>産地⇄化粧品<br>メーカー等<br>(製品試作)<br>産官学 |
| 白びわ<br>伊豆土肥   |  |  |

## <ウェビナー成果発表会>

- 化粧品素材研究の成果を発表
- 日時：令和3年3月22日(月)
- 内容：化粧品・機能性素材開発研究に係る静岡県立大学6課題の研究紹介

## 化粧品等研究開発推進事業助成

| 企業名                | テーマ                            | 事業化に向けた取組           | 備考               |
|--------------------|--------------------------------|---------------------|------------------|
| 日研フード(株)<br>(袋井市)  | 静岡県産農作物を活用した化粧品素材エキスの開発および商品展開 | 試作品を展示会へ出展し素材のPRを実施 | 亜臨界抽出<br>柑橘果皮エキス |
| (株)旭紙工所<br>(富士宮市)  | 静岡県産の“食べられる素材”を使用した唇用化粧品の開発    | R3.5 製品化予定          | コメ発酵液<br>アカモクエキス |
| (株)Dr.シーバ<br>(焼津市) | エラスチンの改良及び美容液ジェルの官能評価          | 原料として販売を開始          | 産学連携<br>水産品エキス   |

# 戦略2 「つくる」競争力のある高付加価値製品の開発

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

機能性食品の開発や先端技術を活用した製品など、時代に即した競争力のある高付加価値製品の開発を目指します。

### 2 主な取組

- 先端科学技術拠点における成果の活用
- 製品開発を支援するプラットフォームの充実
- 県産農林畜水産物や地場産業を活用した製品開発の促進
- あらゆる角度からの付加価値の向上
- 人手不足への対応

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- コーディネータによるAOI-PARC等との共同開発
- 機能性表示食品開発プラットフォームの強化
  - ・ 新たな素材探索研究を実施
  - ・ 機能性食品に関する情報を整理した素材データベースを新たに構築・公開
- 助成金による製品開発支援（補助率1/2、限度額200万円 など）

### 2 取組実績（R2年度）

- ◇ 製品化数：190件 うち機能性表示食品61品目（H27～R2累計）
- ◇ 素材データベース掲載：届出素材7種59商品、研究中素材11件（R3.1月末現在）
- ◇ 食品等開発助成（補助率1/2、限度額200万円）：6件、786万2千円
- ◇ 機能性表示食品等研究開発推進事業助成金（補助率2/3、限度額1,000万円）：2件、1,961万6千円
- ◇ 育成型企業研究会：8グループ（15社）

## 進捗評価 Check

- ✓ プラットフォームを活用した機能性表示食品が事業化されるなど、順調に地域企業の製品化が図られた。
- ✓ 生産能力を高める加工機械や食品残渣を再利用する機械の開発に助成し、製品の付加価値向上を支援。
- ✓ 一方で、発酵食品や非常食など、本県の特徴を活かした製品化が少ない。

## 来年度以降 に向けて Action

- 付加価値向上のため重点テーマへの支援に注力
  - ・ 食品等開発助成（補助率1/2、上限額200万円）→ 特別枠の設定（非常食、ムードフードなど）
  - ・ 新事業創造研究会（10万円/社）→ 重点テーマの設定（発酵食品、食品残渣の再利用など）
- 自然界から取得した酵母・乳酸菌を収載した「食の都しずおか有用微生物ライブラリー」等を活用し、発酵食品の開発を促進

# 戦略2 取組事例① 機能性表示食品開発プラットフォーム

(フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター、静岡県立大学)



「プラットフォーム」から生まれた製品

## 【概要】

- 全国に先駆けて、相談から科学的根拠の証明（SR、ヒト介入）、国への届出までを一貫して支援する「機能性表示食品開発プラットフォーム」を設置
- 平成27年度の制度開始から、これまでに相談955、35社61品目の開発を支援
- 令和元年からプラットフォームの機能強化のため、県立大学においてフレイル等をテーマにした新たな素材探索を開始
- R3年1月に機能性食品素材データベースを公開

## プラットフォームの機能強化（素材探索）

### ○新たな素材探索研究の実施

- ・県大における機能性成分研究を強化
- ・フレイル予防・認知症対策をテーマに学内で行われていた研究を整理し重点的に推進

動脈硬化抑制作用を示すBAIBA  
(3-アミノイソ酪酸)のフレイルに  
関連した研究などを実施

掲載

### ○機能性食品素材データベースの公開

公開時期：令和3年1月～  
掲載内容：研究中素材11件のほか  
届出素材7種59商品掲載



## 機能性表示食品の開発実績（R2年度）

- ✓ プラットフォームの支援により開発された新製品

| 製品名                                     | 製品概要  |  |
|---|---|--|
| Hapitoma<br>(ハピトマ)                      | 生鮮トマトの機能性表示食品<br>(GABA・リコピンのダブル表示)<br>→ストレス・コレステロール<br>→200g摂取で50%の摂取が可能                        |  |
| ファイトベジ<br>ブロッコリー<br>※食品等開発助成<br>採択（R元年） | AOI-PARCとの連携品<br>→品種の選定、収穫時期の設定など<br>(スルフォラファングルコシノレート)<br>→中高年世代の肝臓の健康状態を示す<br>一指標（ALT値）を低下させる |  |
| ノビレックス                                  | シークワサー由来ノビレチン含有食品の認知機能<br>改善効果をヒト試験で初めて確認<br>(県大と琉球大の共同研究)<br>→今後、機能性表示届出予定                     |  |

# 戦略2 取組事例② 助成金による製品化の促進 (フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションセンター)



オリジナル海苔抜型機械の自動化  
(生産能力5倍以上を達成)

## 【概要】

○ H23年度からこれまでに製品化  
57件、売上は8億円以上

○ 来年度からは、食品ロス等の特定  
テーマ枠を設定し、SDGsを推進

## <食品等開発助成>

対象：機能性食品や食品加工機械の  
研究開発に対し助成

補助率：1/2、限度額：200万円

## <育成型研究会>

対象：開発手法の習得を目的に複数  
企業での食品等の開発に助成

補助額：1社あたり10万円

## ○ 食品等開発助成

| 企業名        | テーマ                               | 備考      |
|------------|-----------------------------------|---------|
| (株)増田採種場   | アブラナ科野菜の機能性表示食品の開発と新たな種子販売ビジネスの展開 | 機能性表示食品 |
| 山梨罐詰(株)    | ロカボを食感で味わう新食感カップ入り食品の開発           | CNF活用   |
| (株)はの字食品   | 介護・健康食分野に寄与する付加価値の高い魚肉練り製品の開発     | スマイルケア食 |
| 静岡冷凍倉庫(株)  | 焙煎温度別ティーシロップの開発                   |         |
| シーラック(株)   | 新輪転式自動海苔抜型機械                      | 食品加工機械  |
| HAMAKEN(株) | チーズ製造工程で出るホエイを利用したチーズ製造機の開発と販売    | 食品残渣活用  |

## ○ 育成型研究会等

| 企業名                            | 開発する製品        | 備考          |
|--------------------------------|---------------|-------------|
| 三洋食品(株)、カゴメ(株)                 | イワシとトマトの缶詰    | 大企業とのコラボ    |
| (株)フーズ・ユ一、カゴメ(株)               | トマトソース関連商品    | "           |
| ヤマヤ醤油(有)、おおた食品(株)              | 浜納豆無添加ドレッシング  | 発酵食品        |
| ヤマヤ醤油(有)、うしづまチーズ工場             | 浜納豆チーズ        | "           |
| 丸山製茶(株)、(株)増田採種場               | 抹茶入り青汁        |             |
| (有)春華堂、(株)増田採種場                | ケールクッキー       | 罪悪感のない"おやつ" |
| 森島農園、アイファーム、ベルファーム             | 機能性食品 (GABA)  |             |
| 丸山製茶(株)、(株)荒畑園、本山製茶(株)、丸福製茶(株) | 機能性食品 (茶カテキン) |             |



# 戦略3 「いどむ」データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

新たに設置するリビングラボを活用し、健康状態に応じた健やかで美しい体づくりを目指したヘルスケアを実践するほか、食の基本であるおいしさを追求し、健康機能の維持・増進を図ります。

### 2 主な取組

- データヘルスを活用したプラットフォームの構築
- あらゆる健康課題に対応した製品・サービスの開発
- おいしく、健康をもたらす製品
- ヘルスケア産業の創出
- 健康的な食の確立と普及
- 健診など予防対策の充実

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- 通いの場を中心にリビングラボを展開し、ウェアラブル端末から健康データを収集
- 新たなヘルスケアサービスの創出のため、ビジネスモデル構築をサービス実証を含めて支援
- 認知症、フレイル予防をターゲットとした機能性素材探索研究を県立大学で実施（再掲）
- 飲食店や配食業者などの健康食をキーワードとした新たな商品開発を支援
- 食育や栄養指導による健康づくり

### 2 取組実績（R2年度）

- ◇ 通いの場（静岡市、袋井市）、健康経営企業にてリビングラボ事業を実施し、参加者の健康データを収集・分析。また、地域企業と減塩に関するワークショップを開催し、健康サービスの創出を支援
- ◇ 介護予防ビジネス実証：2件、健康食ビジネスモデル創出業務委託：3件
- ◇ 県立大学にて機能性素材探索研究実施（基礎研究：7件、臨床研究：1件）（再掲）
- ◇ メディシェフ事業で15事業者が健康食レシピを開発し販売
- ◇ 幼年期から高校生まで各機関において食育を実施

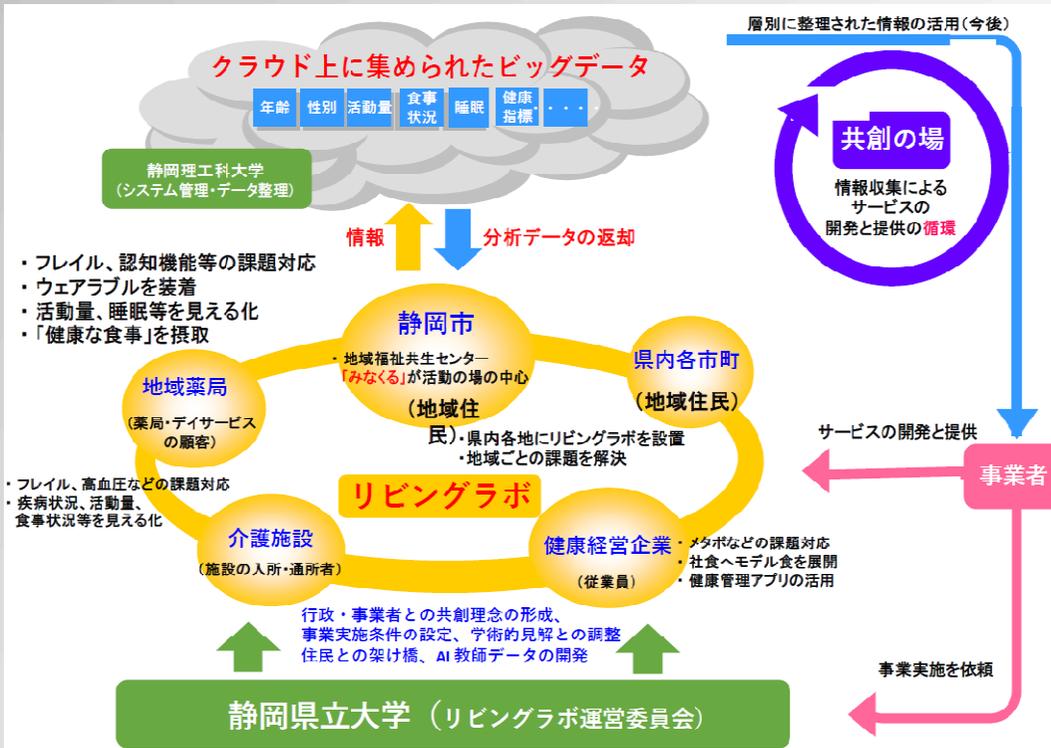
## 進捗評価 Check

- ✓ 通いの場を中心に、ウェアラブル端末から健康データを収集できている。
- ✓ 機能性表示食品や健康メニュー等の商品・サービスの開発は積極的に進んでいる。
- ✓ 一方、収集データの解析・活用までは至っておらず、健康データに基づくサービス創出が進んでいない。

## 来年度以降 に向けて Action

- 令和3年4月に開学する「静岡社会健康医学大学院大学」との連携によりデータヘルスを推進
- ヘルスケアサービスを提供する企業との連携を推進し、データの解析及び活用を進めるとともにサービス創出を図る

## 【静岡県立大学を中心とするデータヘルスリビングラボの概要】



静岡市 (みなくる) リビングラボ

## ○通いの場における健康の見える化事業

通いの場に集まる地域住民を対象にウェアラブル端末を貸出し、自身の健康を見える化することで、健康行動を促すとともに健康データを収集。

収集・分析したデータに基づき、参加者に栄養相談等のフィードバックを実施

栄養相談：延べ32回実施

| 区分  | 参加人数 | 収集データ                                |
|-----|------|--------------------------------------|
| 静岡市 | 144人 | ・歩数<br>・心拍数<br>・消費エネルギー<br>・睡眠時間及び質等 |
| 袋井市 | 50人  |                                      |

## ○地域事業者との連携による実証事業

### 健康的な食事の提供とセルフケアの実践による健康リテラシー向上の検証

静岡信用金庫（健康経営企業）の従業員を対象に、なすびグループが作成した弁当の喫食と健康講座の受講が健康状態に与える影響を評価。（従業員はウェアラブル端末を装着し自身の健康状態を確認できるようにして参加）

**NASUBI GROUP**

検証結果を基に、健康弁当の商品化を検討



検証結果は、従業員の健康増進と取引企業の支援に活用

### ダシ専門メーカーとのワークショップ開催 (テーマ：出汁活用による減塩)



ワークショップ参加者の意見をこれからの商品づくりのアイデアに活用



# 戦略3 取組事例②-1 新しい健康サービスやビジネスモデルの創出を支援

(県商工振興課・県新産業集積課)

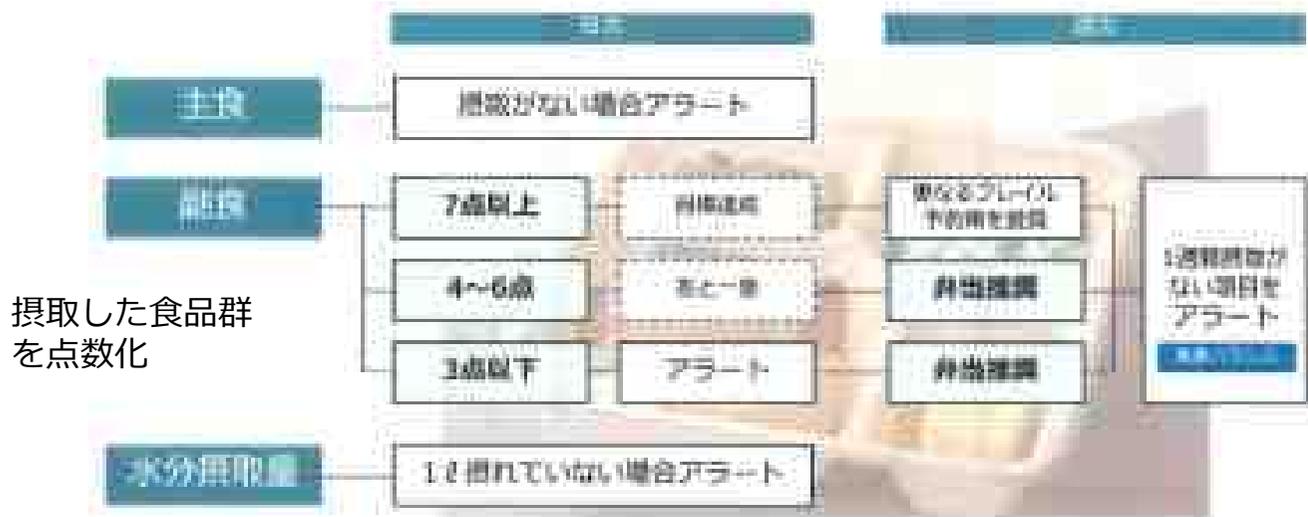
(令和2年度)

|   | 事業者                         | 事業内容   |
|---|-----------------------------|--|
| ① | 介護事業所運営者<br>×<br>高齢者宅配弁当事業者 | ○ <b>高齢者見守りデバイス、アプリによる健康サービス提供システム</b><br>・見守りデバイス等から利用者の環境及び健康関連データを収集し、最適な栄養、食事をレコメンドするアルゴリズム（コンピュータの計算手順、やり方）を作成<br>・利用者の健康状態に最適な栄養情報や宅配弁当をマッチングするアプリ・システムを構築 |
| ② | 電力事業者<br>×<br>ICTメーカー       | ○ <b>高齢者の転倒事故リスクAI予測・転倒予防介入システムの開発</b><br>・高齢者の介護記録や活動量等のデータから、転倒リスクの高い高齢者を早期かつ正確に予測するシステムを開発<br>・転倒リスク群に対する、転倒事故予防のための介入プログラムを開発                                |
| ③ | 宿泊飲食事業者<br>×<br>大学          | ○ <b>健康経営推進企業向けオンラインによる健康コンテンツ提供システムの構築</b><br>・健康経営推進企業向けにレシピ提供や運動等の健康関連コンテンツの提供システムを構築<br>・コンテンツ利用者にはポイントを付与し、健康関連商品を提供する飲食店等に繋げる仕組みを構築                        |
| ④ | 食関連コンサルティング事業者<br>×<br>大学   | ○ <b>健康パフォーマンス向上を支援する市民向け食関連サービス提供システムの構築</b><br>・アスリート向けの健康課題解決をサポートする食事指導等を市民向けにアレンジし、健康パフォーマンス向上を支援する食関連サービスを提供   |
| ⑤ | 飲食事業者<br>×<br>大学            | ○ <b>静岡ブランド健康食の開発と活用</b><br>・生活習慣病リスクの低減効果が期待できる弁当を開発し、健康経営企業にてトライアル実証を行うとともにテスト販売   |

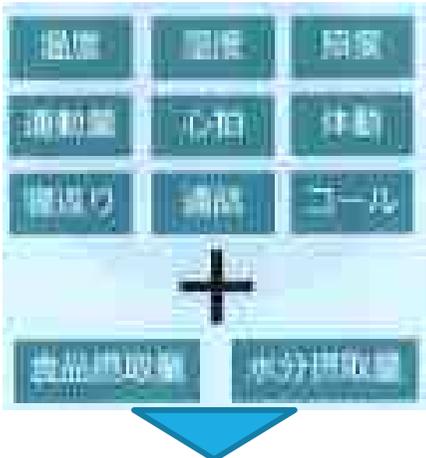
# 戦略3 取組事例②-2 新しい健康サービスやビジネスモデル

## ① 高齢者見守りデバイス、アプリによる健康サービス提供システム

【R2】利用者の健康状態に最適な栄養情報や宅配弁当をマッチングするアプリ・システム開発



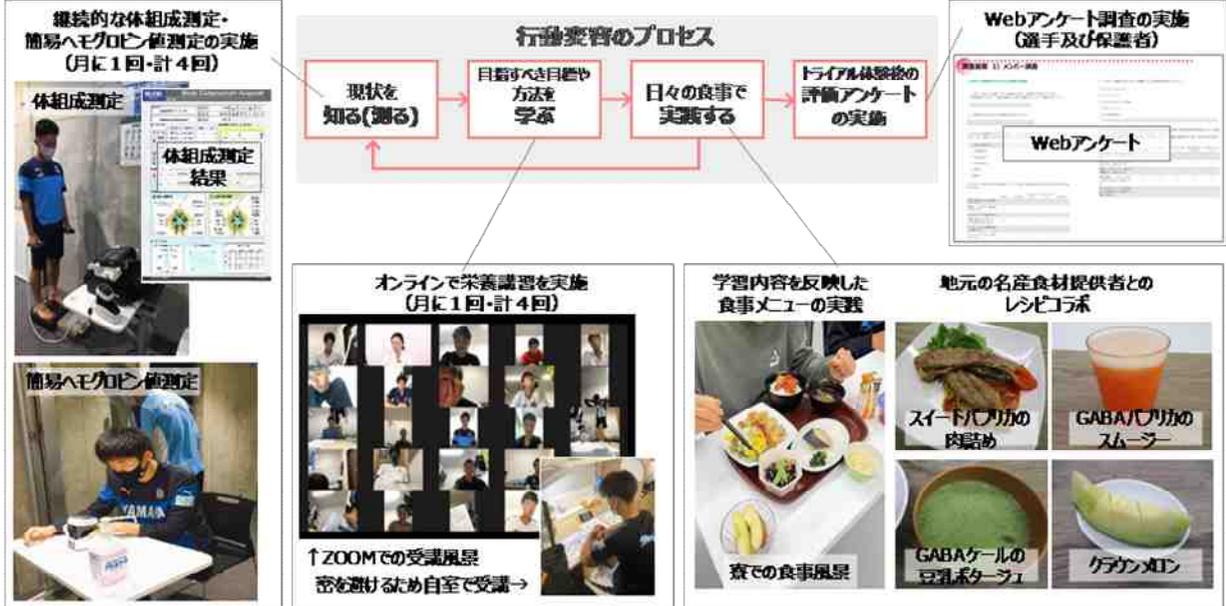
今後の展開イメージ



他のセンサー情報との組合せから異常を検知するアルゴリズム開発へ

## ④ 健康パフォーマンス向上を支援する市民向け食関連サービス提供システムの構築

【R2】アスリート向け食事指導等の健康課題解決プログラムのオンライン化検討



今後の展開イメージ

- ・ジュニアアスリートをターゲットとしたコンテンツ充実
- ・スケールアップしたトライアルサービスを実施し、サービスの有効性を評価
- ・食関連事業者及びプロスポーツ関連事業者を対象に広告を募集し、収益性の検討

ビジネスとして継続性のあるモデルの構築へ

 **Medi-Chef** 「健康食」がより身近になるよう、健康食をつくる人を増やす

- ・ 県内の**飲食・総菜・食品加工事業者15事業者**が「健康食」をキーワードとした商品を開発
- ・ 健康食の情報発信（Medi-Chefのホームページで紹介等）



減塩発酵ラーメン  
鯖トマト味噌仕込み



おさかなと豆乳のフラン  
~静岡緑茶仕立て~



低糖質なソイライスで食べる  
麴仕立てのドライキーマカレー

## 戦略3 取組事例④ 健康的な食の確立と普及（食育等）

### ○ふじえだヘルシー認定店

（藤枝市）

#### 食を通じて健康づくりを応援する 店舗を認定

認定店：26店（R3.3現在）

- 認定された店舗では、バランスの良い食事がとれるメニュー、野菜をたっぷりとれることができるメニュー、エネルギーの表示があるメニュー、地元の食材をつかったメニューの飲食や購入をすることが可能



### ○高校生による和の給食コンテスト

（県地域農業課）

- 高校生の和食への関心を高めることと、地場産品を利用した学校給食を小学生に提供することを目的に、高校生による和の給食コンテストを県内7地域で実施

- R2実績：総応募点数：705点  
受賞作品は、地元の小学校で給食メニューとして提供



志太榛原地域 最優秀賞  
「栄養満点給食」  
静岡県立藤枝北高等学校

### ○こどもへの食育教室

（県健康増進課・静岡県健康づくり食生活推進協議会）

- 対象：幼児、児童とその保護者
- 重点テーマ：減塩、野菜摂取、緑茶を飲む習慣の定着
- 内容：普段の食生活で実践できる知識を伝えるため調理実習等を実施
- R2実績：47教室  
1,312人（子ども1,059人、大人253人）



### ○しずおか“まるごと”健康経営プロジェクト

（県健康増進課）

#### 民間協働による健康課題解決プロジェクト

取組の一つとして、働き盛り世代の食生活を支援することを目指して、主食と組み合わせることで栄養バランスのとれた食事につながる『おかず』＝『しずおか健幸惣菜』の弁当・惣菜販売店や社員食堂での提供を推進



- R2実績：しずおか健幸惣菜パートナー  
弁当惣菜部門3事業者37店舗  
社員食堂部門4事業者10食堂を登録

### 静岡社会健康医学大学院大学との連携 / データヘルスの推進

- ・静岡社会健康医学大学院大学の支援を受け、データ解析から新たな価値を創り、行動変容を促す情報提供や個別化されたサービスの提供などのビジネス展開を推進します。

#### 静岡社会健康医学大学院大学

(令和3年4月静岡市内に開学予定)

##### 1 最先端の研究

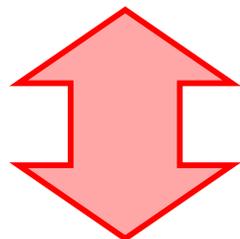
最先端の疫学研究、ゲノムコホート研究、医療ビッグデータ解析

##### 2 高度専門人材の育成

社会健康医学の研究成果を社会に還元し、現場でその向上に貢献できる人材を育成

##### 3 成果の社会還元

研究成果の社会実装を進め、健康増進や疾病予防に貢献



大学院大学との連携によりデータヘルスを推進

フーズ・ヘルスケア  
オープンイノベーションプロジェクト



# 戦略4 「とどける」 社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

多様なライフスタイルや超高齢社会をビジネスチャンスと捉え、市場が求める製品開発やサービス展開を積極的に支援し、新たな販路を拡大します。

### 2 主な取組

- マーケットインの発想に基づく販路開拓
- 社会の環境変化を踏まえたサービスの提供

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- 展示商談会への出展支援及び販路開拓・拡大アドバイザーによる支援
- 自治体による地域ブランディングや個別商談会の開催
- コロナ禍での支援（デジタルを活用した展示会、セミナー等）
- 食の最新トレンドに関するセミナー等の開催

### 2 取組実績（R2年度）

- ◇ 各種展示商談会への出展支援（7回、延べ32社（ふじのくに総合食品開発展を除く））
- ◇ 販路開拓・拡大アドバイザー商談成立件数（127件：R3.1月末）
- ◇ 地域の魅力を伝える商品開発（「静岡おみやプロジェクト」や「藤枝セレクション」等）
- ◇ コロナ禍での新たな取組として、「バイ・ふじのくに」により域内消費を拡大
- ◇ 新型コロナウイルスの影響をテーマとしたセミナーを開催（2回）

## 進捗評価 Check

- ✓ 各種展示商談会への出展支援や販路開拓・拡大アドバイザーの支援により販路拡大を進めることができた。
- ✓ ただ、展示商談会が中止やオンライン化されたため、新規の販路開拓の機会は例年よりも減少した。
- ✓ 地域ブランディングの活動を通じて、地域の魅力を伝える商品開発を推進した。
- ✓ 食による健康づくりの重要性が改めて見直され、食の健康志向の高まりが見られた。

## 来年度以降 に向けて Action

- 引き続き、展示商談会やアドバイザーによる販路開拓・拡大を支援する。
- 地域ブランディングや商談会を支援するとともに、新型コロナウイルスの影響による食の健康志向の高まりなど、食を取り巻く環境の変化を捉えるための国内テストマーケティングを強化する。



第1回化粧品開発展 大阪

【概要】

- 首都圏で開催される展示商談会に静岡県ブースを設置
- 平成30年度から「販路開拓・拡大アドバイザー」をフーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターに配置。これまで300件以上の商談を成立
- 参画市（静岡市、焼津市、藤枝市）と協働で地域企業とバイヤーとの個別商談会等を毎年開催

○展示商談会への出展支援

✓ 静岡県ブースを設置し、地域企業の販路を支援

＜食品関連＞

- ・日本の食品輸出E X P O（3社、商談12件）
- ・食品開発展2020（6社、商談51件）
- ・通販食品展示商談会（10社、商談91件）

＜化粧品関連＞

- ・化粧品開発展 大阪2020（3社、商談112件）
- ・化粧品開発展 東京（6社、商談56件）
- ・しずおかコスメマルシェ in新静岡セノバ（4社、販売実績42万円）



通販食品展示商談会

○バイヤーとの商談

✓ 販路開拓・拡大アドバイザーによる商談支援

- ・バイヤーが求める商品情報を収集
- ・プロジェクト成果品等をバイヤーへ売り込み

【R2実績】

商談成立：127件（1月末現在）

✓ 個別商談会の開催

- ・多数のバイヤーと企業のマッチングを実施

【R2実績】

- ・静岡市 バイヤー13社、企業31社
- ・焼津市 バイヤー14社、企業33社
- ・藤枝市 バイヤー10社、企業29社



静岡市商談会

## ○自治体による地域ブランディング

(静岡市・藤枝市)

### 「静岡おみやプロジェクト」

(静岡市)

地域資源を活用し静岡の魅力を伝える商品開発により、個店をサポート

R2年度のプロジェクトのテーマ  
「地域のおみやげ2.0～2020版 既存商品アップデート～」



### 「藤枝セレクション」 (藤枝市)

地場産品の中から、藤枝を代表する商品を認定し、藤枝の名を全国に発信する取組

エントリーされた商品の中から市民投票と審査会を経て、認定。



### 「農商工連携・6次産業化推進ネットワーク」 (藤枝市)

スタートアップ支援事業により、2事業者が茶製品12商品を開発。



## ○コロナ禍における支援

(県マーケティング課)

### 「バイ・ふじのくに」の実施

積極的に県産品の購入や県内施設を利用する「バイ・シズオカ」を推進。

また、富士山を共有する山梨県と協働した「バイ・ふじのくに」により、域内の財やサービスの消費を拡大。

買って繋がる  
“ふじのくに”



## ○食のトレンドの理解を促進 (セミナー開催)

(フーズヘルスケアオープンイノベーションセンター)

### しずおか健康食イノベーションセミナー ～アフターコロナ時代の食トレンドとおいしい健康食～

時 期：令和2年10月21日(水)

講演①：「食をめぐる環境変化と  
フードビジネス新展開」

講演②：「With→Afterコロナの食生活  
「食」をとりまく5つのキー  
ワードと1つの社会潮流」

パネルディスカッション

「フードサービスの進化と健康長寿へのアプローチ～“飽食”から“適食”の時代へ～」



# 戦略5 「そだてる」産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

地域の競争力強化を目指して、産業人材の育成、開発環境の充実に努め、製品開発力の高い企業などが集積する食品関連クラスターを形成します。

### 2 主な取組

- 大学等との連携による実践教育
- 企業誘致の促進

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- 地域企業内で新規機能性食品等を開発する人材を養成
- 地域企業の中核人材を対象に、データサイエンスの実践スキルの獲得を支援
- 食品関連産業の積極的な企業誘致（助成での優遇:用地（20%→30%,40%）,建物等（7%→10%））
- プロジェクト関連事業の実施に必要な設備資金・運転資金を支援（利子補給）

### 2 取組実績（R2年度）

- ◇ 総合食品学講座 全部受講者：30名（定員26名）
- ◇ 健康イノベーション教育プログラム 受講者：51名（定員80名）
- ◇ 新規・地域産業立地事業費補助金 採択：食品関連産業 11社
- ◇ クラスター分野支援貸付（利子補給率1/2、0.67%まで）22件 28億5,900万円（R3.1末現在）

## 進捗評価 Check

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人材育成数は予定を下回る実績となった。
- ✓ 食品関連産業11社が工場を新設又は増設し、業務開始予定であり、製造品出荷額の増に寄与。
- ✓ 利子補給制度は、宇宙食の開発に取組むなど商品開発力の高い企業の支援につながっている。

## 来年度以降 に向けて Action

- 引き続き総合食品学講座等を開催し、企業内で開発を推進する産業高度人材の育成に努める。
- 2年目となる健康イノベーション教育プログラムでは、広報を強化し、目標80名の達成を目指す。
- 立地環境や優遇制度をPRし、食品関連産業の誘致を図る。
- クラスター分野貸付を継続し、地域企業の事業活動を活性化させる。



富士山麓フロンティアパーク小山

## 【概要】

### ＜人材育成＞

○H20年度から「総合食品学講座」を開催。これまでに1,000人を超える人材を育成。

○R2年度から新たに「健康イノベーション教育プログラム」を開講

### ＜クラスターの形成＞

○食品関連産業に対する助成金の優遇  
・用地20%→30%、建物等7%→10%

○富士山麓フロンティアパーク小山を造成、化粧品や食品会社が進出

○クラスター分野支援貸付

・利子補給率1/2、0.67%まで

## ○県立大学との連携による実践教育

### ✓ 総合食品学講座

県立大学等と連携して、新規機能性食品等の開発人材を育成（フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター）

#### ＜R2実績＞

- ・「DX、AI」をテーマとした講座を新設
- ・29講座：全部受講30人

### ✓ 健康イノベーション教育プログラム

データサイエンスの実践スキルの獲得を支援（県立大学）

#### ＜R2実績＞

- ・「健康と食」等の6科目を展開、受講者51人



## ○企業誘致の促進

✓ 県と市町が連携して、本県の立地環境や支援策をPRして、企業立地に取り組む（県企業立地推進課）

#### ＜R2実績＞

- ・食品関連産業11社（工場を新設又は増設）

✓ プロジェクトを推進する地域企業の事業実施に必要な設備資金、運転資金の利子を補給（県商工金融課）

#### ＜R2実績＞

- ・件数：22件、金額 28億5,900万



JAXA認証食品「名古屋コーチン味噌煮」 石田缶詰(株)ほか

# 戦略6 「ひろめる」「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

## 戦略計画 の内容 Plan

### 1 戦略の内容

本県を訪れる誰もが、国籍、宗教を問わず、静岡の食と食文化を楽しむことができる環境を整備し、静岡の食の魅力を広く発信します。また、静岡の食を海外に向けて積極的に売り込み、輸出の拡大につなげるため、国際規格に対応した製品開発についても積極的に支援します。

### 2 主な取組

- 「食の都」の内なる国際化の推進
- 魅力ある県産品の輸出拡大

## 取組実績 Do

### 1 取組状況

- ハラル対応の店舗の把握とインターネットによる情報提供、ピクトグラムの導入促進
- 香港におけるテストマーケティングと購買データに基づく商談の開催
- 海外販路開拓（海外見本市出展、販売促進媒体作成等）に取り組む県内中小企業を支援（助成金等）

### 2 取組実績（R2年度）

- ◇ 「ハラル・ポータル」による情報提供 掲載123店舗（1月末現在）
- ◇ 県内居住外国人向け「健康な食事」の教材を開発（4ヶ国語）
- ◇ 香港テストマーケティング（R2.10.15～R3.1.31、自動販売機11台、オンライン商談会）
- ◇ 中小企業海外市場開拓支援事業（補助率1/2、限度額50万円） 採択実績 2 1社
- ◇ 加工食品輸出スタートアップ支援事業（補助率2/3、限度額200万円） 採択実績 2社
- ◇ ジェトロ地域貢献プロジェクトによる販路開拓支援（フランス商談会） 5社

## 進捗評価 Check

- ✓ 県内居住外国人に対し、ハラル対応店舗や教材の開発などにより、積極的に情報提供している。
- ✓ テストマーケティングでは、データに基づく商談により、継続的な商談につながっている。
- ✓ プロジェクトを推進する県内支援機関において、着実に事業展開が図られている。

## 来年度以降 に向けて Action

- ハラル対応店舗数の拡大や、R2年度から開始したピクトグラムの導入を促進する。
- プロジェクトを推進する県内関係機関と協働により、県産品の輸出拡大を図る。



アラブ首長国連邦「Gulfood」

## 【概要】

- 県内の外国人を含め、誰でも食を楽しめる「食の都」の内なる国際化を推進
- コロナ禍での県産品の輸出拡大に向け、オンライン商談や遠隔で売上データを確認できる自動販売機によるテストマーケティングを実施
- 世界のEC市場2020年は前年比16.5%増の見通し（ジェットロ作成資料）、ジェットロでは、EC支援事業を展開

## ○多様な食文化に関する情報発信

- ✓ 「ハラール・ポータル」でムスリム対応可能な飲食店、ハラール食材取り扱い店舗などの情報を発信（県マーケティング課）

＜R2実績＞ 掲載123店舗（1月末現在）



## ○海外販路開拓支援

- ✓ フランス向け日本酒オンライン商談会（ジェットロ静岡・浜松）
  - ・参加5社、商談24件（2月現在）
- ✓ 「中国国際輸入博覧会」静岡県ブースを出展（県マーケティング課）
  - ・会場（上海市）にサンプルを展示し、商談はオンラインで実施
  - ・出展事業者3社 商談件数48件
- ✓ 海外見本市出展、販売促進媒体作成等に助成（県企業立地推進課）
  - ・21社（うちフーズ関連10社）



「フランス商談会」

## ○香港における食品テストマーケティング

- ✓ 自動販売機を設置し、購入者のデータを収集・分析。その後、現地バイヤーとオンライン商談会を実施

＜R2実績＞ テスト販売：16事業者、32商品 販売約29万円

＜R元実績＞ テスト販売：12事業者、28商品

うち、R2年度継続取引：3事業者6商品



# 成果指標の状況

| 成果指標           | 目標値   | 現状値                              |
|----------------|-------|----------------------------------|
| 静岡県の健康寿命       | 全国第1位 | 男女ともに全国2位<br>(男性72.15歳、女性75.43歳) |
| 食料品等の付加価値労働生産性 | 全国第1位 | 全国第4位<br>(H30実績)                 |

| 活動指標           | 目標値    | 現状値(R3. 1末) |
|----------------|--------|-------------|
| 産学官金連携による研究件数  | 90件／年  | 60件         |
| 事業化件数          | 40件／年  | 36件         |
| うち、ヘルスケア       | 5件／年   | 20件         |
| 販売促進支援件数       | 110件／年 | 165件        |
| 産学官金連携による人材育成数 | 100人／年 | 81人         |